

一般シンポジウム S22

医療における賢明な選択 (Choosing Wisely) と “Shared decision making”

—薬剤師に期待される役割—

Choosing Wisely and Shared Decision Making —An Expected Role for Pharmacists—

山本 美智子¹, 寺田 智祐²

¹昭和薬大, ²滋賀医大病院

Choosing Wisely は、簡単に言うと、「根拠に乏しいにもかかわらず実施されている医療行為を EBM の観点から見直し、適正な医療を目指す」活動である。現在までに、カナダ、イタリア、スイス、イギリス、オーストラリア、日本など各国に、Choosing Wisely の輪が広がっている。OECD が加盟国の医療制度や実績などについて比較したリポート(2015 年版)は、Choosing Wisely キャンペーンの普及に着目し、各国での各種検査、抗菌薬やベンゾジアゼピン系薬の適正使用の取り組みについて言及している。この活動は、国や保険者から強制されるものではなく、医療従事者が主導して行ってこそ、他の医療従事者や患者から大きな信頼感を得られると考える。増大する医療費をできるだけ抑えるためにも、患者の安全性を担保する上でも、薬剤師が担う役割は大きい。

今回、Choosing Wisely の取り組み等について紹介し、国内の現状について検討する。近年、特に高齢者に対するポリファーマシーや抗菌薬の過剰な使用について注目が集まっている。一方、妊婦・授乳婦領域では、適正な医療に向けたエビデンスの創出が課題である。シンポジストの皆様には、薬学関係者および薬剤師として、今後取り組むべき課題についてお話いただく予定である。また、患者の立場から、納得できる意思決定(共有意思決定)の実現に向けた医療のあり方についても討議を行う予定である。